

原 著

早期臨床実習を受講した学生へのアンケート調査とその評価

堀 田 正 人¹⁾ 北 後 光 信²⁾ 松 岡 正 登³⁾ 横 山 貴 紀⁴⁾
 片 山 祐 祐⁴⁾ 石 津 恵 津 子⁵⁾ 近 藤 亜 子⁶⁾ 田 中 四 郎⁷⁾
 江 原 雄 一⁷⁾ 木 村 洋 子²⁾ 瀧 田 史 子⁴⁾ 瀧 谷 佳 晃⁸⁾
 服 部 真 丈⁸⁾ 松 井 孝 介⁴⁾ 向 井 陽 祐⁹⁾ 岩 島 広 明¹⁰⁾
 橋 本 岳 英¹¹⁾ 若 松 紀 子⁶⁾ 大 橋 静 江¹⁾ 滝 川 俊 也¹²⁾
 吉 田 隆 一⁸⁾ 倉 知 正 和¹³⁾

Evaluation of Student Questionnaire on Experience of
Early Period of Clinical Practice

HOTTA MASATO¹⁾, KITAGO MITSUNOBU²⁾, MATSUOKA MASATO³⁾, YOKOYAMA TAKANORI⁴⁾,
 KATAYAMA TASUKU⁴⁾, ISHIZU ETSUKO⁵⁾, KONDOU TSUGUKO⁶⁾, TANAKA SHIRO⁷⁾, EHARA YUICHI⁷⁾,
 KIMURA YOUKO²⁾, TAKITA FUMIKO⁴⁾, TAKITANI YOSHIAKI⁸⁾, HATTORI MASAHIRO⁸⁾, MATSUI KOUSUKE⁴⁾,
 MUKAI YOUSUKE⁹⁾, IWASHIMA HIROAKI¹⁰⁾, HASHIMOTO TAKEHIDE¹¹⁾, WAKAMATSU NORIKO⁶⁾,
 OHASHI SHIZUE¹⁾, TAKIGAWA TOSHIYA¹²⁾, YOSHIDA TAKAKAZU⁸⁾ and KURACHI MASAKAZU¹³⁾

この調査研究は2011年度朝日大学歯学部早期臨床実習 I, II, IIIについて, それぞれ1年生, 2年生, 3年生を対象に満足度に対するアンケート調査を行い, その問題点等について分析, 評価したものである。

その結果, ほとんどの1~3年の学生は満足しており, なかには将来の学習, 臨床実習に対するモチベーションを高めるために有用であると回答した学生もいた。

キーワード: 早期臨床実習, アンケート調査, 学部1年生, 学部2年生, 学部3年生

The present study was conducted by questionnaire about satisfaction with the program of the 2011 early period of clinical practice (I, II, III) at Asahi University School of Dentistry. A questionnaire was given to

¹⁾朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科保存学分野歯冠修復学

²⁾朝日大学歯学部口腔感染医療学講座歯周病学分野

³⁾朝日大学歯学部口腔病態医療学講座歯科放射線学分野

⁴⁾朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野

⁵⁾朝日大学歯学部口腔感染医療学講座社会口腔保健学分野

⁶⁾朝日大学歯学部口腔構造機能発育学講座小児歯科学分野

⁷⁾朝日大学歯学部口腔病態医療学講座口腔外科学分野

⁸⁾朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科保存学分野歯内療法学

⁹⁾朝日大学歯学部口腔構造機能発育学講座歯科矯正学分野

¹⁰⁾朝日大学歯学部口腔病態医療学講座インプラント学分野

¹¹⁾朝日大学歯学部口腔病態医療学講座障害者歯科学分野

¹²⁾朝日大学歯学部口腔構造機能発育学講座口腔解剖学分野

¹³⁾朝日大学歯科医学教育推進センター

501-0296 岐阜県瑞穂市穂積1851

¹⁾Department of Operative Dentistry, Division of Oral Functional Science and Rehabilitation

²⁾Department of Periodontology, Division of Oral Infections and Health Science

³⁾Department of Oral and Maxillofacial Radiology, Division of Oral Pathogenesis and Disease Control

⁴⁾Department of Prosthodontics, Division of Oral Functional Science

and Rehabilitation

⁵⁾Department of Community Oral Health, Division of Oral Infections and Health Science

⁶⁾Department of Pediatric Dentistry, Division of Oral Structure, Function and Development

⁷⁾Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Division of Oral Pathogenesis and Disease Control

⁸⁾Department of Endodontics, Division of Oral Functional Science and Rehabilitation

⁹⁾Department of Orthodontics, Division of Oral Structure, Function and Development

¹⁰⁾Department of Oral Implantology, Division of Oral Pathogenesis and Disease Control

¹¹⁾Department of Dentistry for the Disability and Oral Health, Division of Oral Pathogenesis and Disease Control

¹²⁾Department of Oral Anatomy, Division of Oral Structure, Function and Development

¹³⁾Dental Education Development Center

Asahi University School of Dentistry
Hozumi 1851, Mizuho, Gifu 501-0296, Japan

(平成24年5月28日受理)

first-, second- and third-year students after the 2011 early period of clinical practice. In order to evaluate the program and to identify issues to be solved, dental students' questionnaires were analyzed qualitatively.

The results showed that most of the students were satisfied with the early period of clinical practice. Some of students (first-, second-, and third-year students) commented that their experience in this year's program increased their motivation for future learning and training.

Key words: early period of clinical practice, questionnaire, first-year students, second-year students, third-year students

緒 言

早期臨床実習の導入¹⁾が急速に広まりつつある。歯科医師として必要な実践的能力に加え、絶えず患者本位に立つことや人間理解に立った高い協調性のもとに、医療チームの一員としての行動が求められている。したがって、豊かな人間性や高い倫理観、医療人としての教養、さらには問題解決能力を身に付けた歯科医師を養成する必要がある。歯学生に歯科医療全般に対する強い印象を体感させ、患者を理解し、歯科医学を学ぶことに対するモチベーションを高め、現場で活躍する医員について理解することなどを目的に独自の体系による早期臨床実習を行っている。平成23年度は1～3年次に早期臨床実習が学習項目として組み込まれ、病院見学、卒後研修医とのペア実習、エックス線撮影、OSCE 課題の一部の実習等が導入された。しかし、現在のところ大学側はこの早期臨床実習を手探りで模索している状態で、大学内における講義だけでは感じ取れない体験学習、すなわち、早期臨床実習(1年～3年)がいかに歯学教育に影響を及ぼすかを知ることが重要である。また、早期臨床実習をより良いものに改善するためにも学習を行う学生自身の意見を聞くことは必要不可欠である。学生の満足度およびコメントは実習および体験学習による教育効果を反映し、重要な指標とされている²⁻⁴⁾。そこで、1～3年次の早期臨床実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを受講した学生を対象にアンケート調査を行ったので報告する。

方 法

1 実習の概要

平成23年度の朝日大学歯学部早期臨床実習は1年次から3年次と段階的に実施された。

平成23年度は1年生を4ブロックに分け(A, B, Cブロック:36名, Dブロック:35名)、さらに1ブロックを4～5名の8グループに分割した。2年生も4ブロックに分け(A, Bブロック:35名, C, Dブロック:34名)、さらに1ブロックを4～5名の8グループに分割した。3年生も4ブロックに分け(A, B, C, Dブロック:27名)、さらに1ブロックを3

～4名の8グループに分割し、病院見学(総合診療科、歯科放射線科、矯正歯科、小児歯科、口腔外科、歯科補綴科、歯内療法科、歯周病科)と各課題をローテーションさせて行った。1年次(早期臨床実習Ⅰ)は後学期に病院見学と卒直後研修医とのペアで口腔内検診、歯周組織検査、印象採得の実習を行った。一般目標(GIO)は以下の3項目である。1) 臨床見学でのマナーおよび歯科医療の現場を理解する。2) 口腔内検査の手順を理解する。3) 印象採得の手順を理解する。行動目標(SBOs)は以下の4項目である。1) 臨床見学のマナーおよび歯学部学生としてのモラルで行動できる。2) 病院内にある診療科名と診療内容を説明できる。3) 口腔内検査ができる。4) 印象採得の手順を説明できる。2年次(早期臨床実習Ⅱ)は全学期にわたり、病院見学、パノラマエックス線撮影とそのスケッチおよび所見の記載を行った。GIOは以下の3項目である。1) 臨床見学でのマナーおよび歯科医療の現場を理解する。2) パノラマエックス線撮影の手順を理解する。3) パノラマエックス線写真の所見を理解する。SBOsは以下の6項目である。1) 臨床見学のマナーおよび歯学部学生としてのモラルで行動できる。2) 病院内にある診療科名と診療内容を説明できる。3) パノラマエックス線撮影の手順を説明できる。4) パノラマエックス線写真を正確にスケッチできる。5) パノラマエックス線写真上に解剖学的名称を記載できる。6) パノラマエックス線写真の読影ができる。3年次(早期臨床実習Ⅲ)は病院見学とOSCE 課題の一部(医療面接、フッ素塗布、レジン充填、ラバーダム防湿)を行った。GIOは以下の4項目である。1) 臨床見学でのマナーおよび歯科医療の現場を理解する。2) 初診時の医療面接を理解する。3) 基本的臨床技能を理解する。4) 患者に対する説明と処置を理解する。SBOsは以下の6項目である。1) 臨床見学のマナーおよび歯学部学生としてのモラルで行動できる。2) 病院内にある診療科名と診療内容を説明できる。3) 初診時の患者の病状の聴取ができる。4) ファントムでレジン充填のための歯面処理とレジン充填操作ができる。5) ファントムでラバーダム防湿ができる。6) 小児患者に対する説明

と簡単な処置ができる。また、学生の実施態度は早期臨床実習部会の教員が遅刻、欠席、服装、個別学習態度等についてチェックした。

2 早期臨床実習実施直後のアンケート調査

早期臨床実習終了後に早期臨床実習Ⅰは補習受講学生44名に対して、「早期臨床実習Ⅰを終えて」と題し、1) 病院見学について、2) 口腔内検診、歯周組織検査、印象採得の卒直後研修医とのペア実習について①良かった(勉強になった)②ためになったが良くないところがあった③あまり良いとは思えなかったの3段階で回答させた。また、1)、2)の回答理由等について自由記述も行った。早期臨床実習Ⅱは補習受講学生36名に対して、「早期臨床実習Ⅱを終えて」と題して、1) 病院見学について、2) パノラマエックス線撮影とそのスケッチおよび所見の記載について①良かった(勉強になった)。②ためになったが良くないところがあった。③あまり良いとは思えなかった。の3段階で回答させた。また、1)、2)の回答理由等について自由記述も行った。早期臨床実習Ⅲは、全受講学生108名に対して、「早期臨床実習Ⅲを終えて」と題して自由記述でアンケート調査を実施した後、実習責任者(教員一人)が全員の自由記述アンケートを通読し、カテゴリー化することにより集計・解析を行った。

結 果

1 早期臨床実習Ⅰ

アンケート調査の回収率、有効回答は44名中の44名で100%であった。1) 病院見学について「良かった・勉強になった」33名、「ためになったが良くないところがあった」11名、「あまり良いとは思えなかった」0名であった。2) 口腔内診査・スタディモデル作製については「良かった・勉強になった」35名、「ためになったが良くないところがあった」8名、「あまり良いとは思えなかった」1名であった。高率で肯定的

表1 早期臨床実習Ⅰのアンケート調査回答理由

病院見学の「良かった」理由
○教科書や講義で習ったこと(操作手順等)を実際に見学できて良かった(20名)。
○親切に診療内容を教えてもらったり、質問ができて良かった(3名)。
○新鮮でイメージをつかむのによく、体験できてよかった(8名)。
○歯科医師になるという自覚、動機、目標になった(8名)。
口腔内診査・スタディモデル作製の「良かった」理由
○自分の口腔内が理解できた(6名)。
病院見学の「良くなかった」理由
○待ち時間が長かった(3名)。
○勉強不足、早すぎて内容が理解できなかった、詳しく説明してほしい(8名)。
○立っているだけでは邪魔ではないか(1名)。
口腔内診査・スタディモデル作製の「良くなかった」理由
○1年生でやる必要があるのか(1名)。
○実習は苦しかった、痛かった(1名)

回答が得られた。また、1)、2)の回答理由についての自由記述は表1に示すとおりであった。

2 早期臨床実習Ⅱ

アンケート調査の回収率、有効回答は36名中の36名で100%であった。1) 病院見学について「良かった・勉強になった」29名、「ためになったが良くないところがあった」7名、「あまり良いとは思えなかった」0名であった。2) パノラマ撮影・スケッチについては「良かった・勉強になった」32名、「ためになったが良くないところがあった」3名、「あまり良いとは思えなかった」1名であった。高率で肯定的回答が得られた。また、1)、2)の回答理由についての自由記述は表2のとおりであった。

3 早期臨床実習Ⅲ

アンケート調査の回収率、有効回答は108名中の103名で95%であった。その内容から判断して、病院見学については「良かった」70名(68%)、「良くないところがあった」17名(16%)であった。OSCE実習については「良かった」59名(57%)、「良くないところがあった」1名(1%)であった。また、「苦勞した・

表2 早期臨床実習Ⅱのアンケート調査回答理由

病院見学の「良かった」理由
○座学で学んだことを実際に実感(患者対応、病棟の雰囲気)できて良かった(9名)。
○勉強不足を感じ、モチベーションが上がった(5名)。
○自分の知識向上に役立った(2名)。
○説明が丁寧で、講義では聞けない話であり、良かった(4名)。
パノラマ撮影・スケッチの「良かった」理由
○実習で自分の治療歴が理解でき良かった(10名)。
病院見学の「良くなかった」理由
○1年次と同じで良くなかった(2名)。
○説明してほしい(1名)。
○立っているだけの時があった(1名)。
パノラマ撮影・スケッチの「良くなかった」理由
○知識不足であるためもっと説明がほしい(3名)。

表3 早期臨床実習Ⅲの自由記述アンケート調査回答理由(病院見学について)

良かったと回答した理由
○3年生になって治療内容(講義の終わった教科)が理解できるようになってきた。
○各種の診療科を見学することができた。
○5年生でいきなり病院生になるよりよかった。
○見学で授業のモチベーションが上がった。
○インフォームドコンセントの重要性がわかった。
○臨床を直接、肌で感じた。
○来年以降(4年生、OSCE、病院生)をがんばりたい。
○臨床の先生に丁寧に教わり、仲良くなった。
良くなかったところがあったと回答した理由
○治療が終わった後での医員の説明がほしい(1名)。
○授業でやっていない科目の診療はわからなかった。
○周りが忙しそうで見学の雰囲気ではなかった。
○見学の位置が遠くて何をしているかわからなかった。
○同じような症例ばかりで面白くなかった。
○3年間同じことの繰り返しであった。
○4年生ではやりたくない。
○無駄な時間であった。
○大勢で見学するのは患者さんに不快で、実際迷惑がられた。

表4 早期臨床実習Ⅲの自由記述アンケート調査回答理由
(OSCE 実習：医療面接・フッ素塗布・レジン充填・ラバーダム防湿について)

良かったと回答した理由
○レジン充填は復習になった。
○4年生のオスキーのイメージがわき、役立つ。
○術式だけでなく患者に対する配慮の勉強になった。
○時間に余裕があり、反復練習ができた。
○もっとオスキーのテーマを増やしてほしい。
○モチベーションが上がリ、次の目標ができた。
○やってみるとできないことを自覚できた。
良くないところがあったと回答した理由
○レジン充填は2年次の実習の方が良かった。

表5 早期臨床実習Ⅲの自由記述アンケート調査回答理由
(疲れたとその他について)

早期臨床実習に対して苦労した・疲れたと回答した理由
○精神的、肉体的にきつかった。
○レポートを書くのに苦労した。
服装、遅刻、忘れ物等に関する意見を述べた学生
○スーツを毎回着ていくのは面倒であった。
○8時50分に来て、お腹が痛くなり、先生にトイレに行くと言ったのに遅刻にされた。
○遅刻しないように家を早く出るように心がけた。
○忘れ物をして再実習になり、反省している。
○服装、身なりに対して意識できるようになった。
○患者さんの立場になって考えることが大切だと思った。
○病院の雰囲気慣れてきた。

疲れた」2名(2%)であった。高率で肯定的回答が得られた。さらに、カテゴリー化して集計した結果ごとの理由を表3～5に示す。

考 察

早期臨床実習、特に病院見学実習は臨床実習の際のストレスを減らし、自己認識と患者に対する共感的態度を育み、自信を持たせ、動機付けをし、歯学生の学びを促し、職業人としての自覚(役割、責任)を促す⁵⁾意味で重要であると考えている。専門教育を効果的に行う際直接的な目的体験が最も印象度が高く、学習者の記憶に残りやすいといわれている⁶⁾。今回のアンケート調査の結果、早期臨床実習の授業満足度は全体的な感想・印象として多くの学生が肯定的な回答であった。多くの学生が病院見学は有意義であったと感じていることがわかった。病院見学実習において単なる見学に終始することなく、実際の場面での患者の姿、歯科医師の姿を体験知として得られたため、学生の感じ取り方には変化が見られたようである。本教科の主たる学習目標は各学生がより早く将来の歯科医師をイメージし、身近なものとして捉え、モチベーションを築きやすくすることである。今回のアンケートの回答だけからは実際にどれだけの学生がモチベーションの向上に繋がったかは判断できないが、多くの学生の早期臨床実習に対する「良かった」との肯定的な回答から、ある程度の教育効果は得られたと考えられた。

しかしながら、有意義でなかったと感じている学生も存在した。この主な理由は知識がないうちに実習を行っても意味がないという意見であった。しかし、早期臨床実習の本来の目的は知識を生かし、技術を修得することだけではなく、実際に医療現場を見ることにより、患者の痛みや苦しみを身近に感じる医療の担い手としての自覚と学習意欲を高めることが第一である。このことを理解していない学生にとっては無意味に感じたのであろう。カリキュラムの一環として漫然と参加している学生も一部認められた。学生のやる気を起こすため、患者対応(挨拶、エプロン、治療の説明等)に参加させてはどうかとの教員側からの意見もあるが、受け身としての見学だけでなく、学生が自ら医員に質問をし、解決することにより学びにつながることはこのアンケートからも明らかであった。したがって、医員は積極的に診療内容を見学する学生に説明・解説することが重要であると思われた。また、医員の仕事に対する取り組み姿勢、医療人として活躍している姿が学生の満足度に影響を及ぼしていると考えられる。医員は診療で忙しい中ではあるが、診療後の説明・解説(きめ細かい指導)を行うことで病院見学満足度を高め、よりよい見学プログラムに改善することができると思われた。現場の日常業務への支障をなるべく軽減するとともに医員の協力(熱意と誠意)が不可欠である。学生の質問時間と場所を作ることが必要であると感じた。

また、教員側から見るとオリエンテーションにて病院内での態度や身だしなみについて丁寧に説明しているにもかかわらず、患者さんから白衣が汚いことを指摘されたり、服装、髪形、所持品などの注意事項を厳守できない学生がいた。身なりのチェックを徹底するなど今後の検討課題となっている。

結 論

平成23年度の1年生、2年生、3年生を対象にそれぞれ早期臨床実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに対する満足度について、受講後にアンケート調査を行った。その結果、早期臨床実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに対して、高率で「良かった、勉強になった、ためになった」との肯定的回答が得られた。歯学生の早期にこのような体験をすることは非常に重要であり、学習のモチベーションを高めるためにも有用であることが再認識された。

文 献

- 1) 柵木寿男, 三代冬彦, 西田紘一, 屋代正幸, 住友雅人, 吉田隆一, 古屋英毅, 中原 泉. 本学歯学部における第1学年病院体験実習の導入. 日歯教誌. 2004; 19:

- 401-408.
- 2) 末丸克矢, 山下梨沙子, 武市佳己, 山口 巧, 公平恵崇, 岡本千恵, 五十崎俊介, 井門敬子, 田中 守, 三好裕二, 森口淑秀, 池川嘉郎, 荒木博陽. 模擬体験を組み込んだ薬学部4年次生の病院実習の評価. 医療薬学. 2006; 32: 139-145.
 - 3) 小林道也, 小田雅子, 斎藤浩司. 北海道医療大学薬学部3年次学生における調剤実習の満足度調査—任意薬局研修経験の有無と希望進路による影響—. 薬学雑誌. 2005; 125: 417-425.
 - 4) 松田裕子, 八木敬子, 平井みどり. 神戸薬科大学における模擬患者の養成と実習への導入. 医療薬学. 2005; 31: 125-135.
 - 5) Littlewoods S, Ypinazar V, Margdis SA, Scherpbier A, Spencer J and Dornan T. Early practical experience and the social responsiveness of clinical education: systematic review. *BMJ*. 2005; 331: 387-391.
 - 6) 水越敏行. 講座授業改造①授業改造の視点と方法. 1版. 東京: 明治図書出版; 1979: 90-117
-